

自悠新聞

〒980-6101

仙台市青葉区中央1-3-1 アエル1階
発行所 丸善仙台出版サービスセンター

平成22年(2012年)4月 No.86

☎022-264-0151 fax022-264-0112

印刷 東北堂印刷株式会社

jk.ishimori@gmail.com

編集長 石森浩一



世界印象記 (昆虫編)
2,625円 (税込み)

世界印象記シリーズの第3弾として、「昆虫編」を上梓いたしました。取るに足らない小動物といわれる昆虫に対して、「自然探求の入り口を教えてくれたもの」として、筆者には特別の思い入れがあります。

たえば、カブトムシなどの甲虫には、蜜を出す大木が必要で、トンボ達には、採餌と繁殖のための池や沼が必要です。筆者の生れた名古屋の高台(通称、象鼻台地)には、森や林や池があり、一日中色々な昆虫と交流する至福の時がありました。それから半世紀も経ち、仙台でくらしながら、あの時の記憶は、今でもはつきりと残っていて、どうしても昆虫達のことを書き留めずにはいられなくまりました。とはいえず、筆者が知っている昆虫の種類は、数百万種といわれるものの極一部にすぎません。本として出版するためには、やはり先人の方々の、生態や行動についてのすぐれた著書や、進化史や分類に関する学術書を読む必要にせまられました。おかげで、浅学ながら、昆虫についての知見を一層深めることが出来、その成果のいくらかをここに書き残すこととなりました。

自費出版 シリーズ第3弾 『世界印象記(昆虫編)』 発刊に寄せて

恒川 信

につれて、昆虫の居場所ほとんど狭められてきました。今でも地球上で、日本はセミの楽園であり、トンボの王国です。この画文集を読むことにより、どうか虫好きな人が一人でも多くなり、いつも虫達のことを気に掛けてくれる人達がふえまじようにと願っています。よろしくお願いたします。なお、今回の表紙のタイトル文字の虹色キララ紋様は、オーストラリアに棲息する「ニジイロクワガタ」や日本のヤマトタマムシの体色をイメージしたものです。今回、出版社の方々の尽力により、予定よりも早い出版となりました。このことが、「東日本大震災」からの東北地方復興の一助になったのであれば、望外の幸せです。

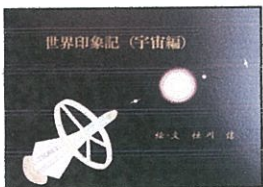
(著者 記)

*シリーズ第1弾 『世界印象記(風物編)』 著者が、二十数年間に体験した国の内外での印象深い旅の出会いの中から

ら、特に心に残った十枚のスケッチに、歴史や逸話などをまじえて、「風物記」としてまとめた一冊。フアンタスティックな世界に浸ってみては如何でしょうか。



世界印象記 (風物編)
2,520円 (税込み)



世界印象記 (宇宙編)
2,520円 (税込み)

*シリーズ第2弾 『世界印象記(宇宙編)』 A4ヨコ判いっぱいに広がる宇宙は、居ながらにして読者を果てしない宇宙へと誘ってくれます。今、天文学の専門家の宇宙観は、まさに一大変革の中にあるという。画文集ながら筆者の学術的な解説は、専門書にも値する内容となっている。世界天文年(2009)を記念して出版された金字塔的画文集である。

M マルエム春秋

三女が結婚した。披露宴の会場は定禅寺通りにある人気の会場だ。光のページェントが始まった翌日の十二月三日の夕方が開宴だ。花嫁の父となるのはこれで二回目。長女に結婚の兆しが見えないのが、心配ではある。披露宴の会場が決まったと娘に告げられた時、ト思った。「花嫁の父は披露宴で挨拶をすることがないな」と。そこで、冗談交じりに、娘に言った。「お父さんにもスピーチさせて」と。娘は「いいよ」と即座に答えた。当日の朝になってチョット後悔した。何を話せばいいのか迷いだしたのだ。しかも、出番は新郎新婦入場の直ぐ後だという。つまり開会宣言なのだ。しかし、私は5分以上話してしまった。その時娘は、私の目を見つめて私の言葉一つ一つに頷いていてくれた。娘の後ろにはページェントのオレンジ色の光りが窓いっぱい輝いていたが、娘の眼差しはその光の中でも飛びぬけて美しく見えた。

自費出版『神様のくれたメッセージ 生きてこそ』

橋 聡美

生きてこそ。本の題名には、多くの人に前を向いて頑張つて欲しいという願いを込めています。詩は全部で四〇篇ありますが、東日本大震災を経験した渦中に作り上げたものでもあり、どの詩も思い入れが深く、これらをひとつの作品にしたいと思っていました。そんな中、丸善の石森さんに出会い、本当にこの作品がひとつの形として、世に出るまでになりました。一冊の本を作り上げるという作業は、自分自身と向き合う作業でもあり、完成させたことで大きな自信につながっています。作品を作る過程で、自分がどれだけ多くの人に支えられているかという事も実感しています。人は、一人では生きていけないのです。私は、自分の手許に一冊置いて、何かあった時は読み返し、心の支えにしています。この本が多くの人の手に渡って、生きるヒントになればと思っています。



丸善仙台アエル店
自費出版コーナーにて好評発売中!

この本は、皆さんが生きていく上で気付けて欲しい、大切にしたいことを散りばめています。わたしはこれらのメッセージを書いては読み、書いては読みを繰り返して、一年にわたる辛い入院生活、自分自身を励ましてきました。生きていくことは、美しいことばかりではありません。皆、いろいろな事を乗り越えて頑張っているのです。だから、頑張るあなたのお供に、この本を選んで下されば幸いです。(前書きより抜粋)

一步を踏み出す
"この道をゆけばどうなるのか/危ぶむなかれ/危ぶめば道はなし"

そんな事を言っている人がいたけれど/一步を踏み出すことを恐れては/何にも起きない/おびえては/何にも出

来ない/
怖いけど、一步を踏み出すこと/あとは、ころころと転がるように事が進展する/着地点はどうなるんだらう/想像もつかないけれど/勇気を出して進んだだけ、報われるものさ/成るようになるものさ/だから、顔を上げていこうよ
(本文 P24~25 より)

文庫判 82ページ
670円(税込み)

朗読サロン虹の街第6回

沈黙の海

あの日、夜
雪が降った
横なりの烈しい雪が吹き荒
余震が続く中
「木がうごめくたよりに
毛布をかき
空さ地に身を寄せあ
夜更けに雪がやむと
青く澄み透った夜空に
いつもより多くの星が
さびたように光だ
そら
たぐひ
たぐひ
たぐひの命が
空に昇た

3・11 あの日を
*日時 平成24年5月6日(日) 14:00~15:50
*会場 エルパーク スタジオホール(三越定禅寺通り館)
*会費 一般1,800円 当日2,000円 高校生 1,000円
後援: 仙台市教育委員会 (財)仙台市市民分業事業団
TBC 東北放送
助成: アーツエイド東北
○講演 藤沢智子氏 (TBC 東北放送アナウンサー)
○朗読 『詩集 沈黙の海1』より
○歌唱 萩原里香 ピアノ 掛田瑠子
*お申し込みは、電話 090-4049-4949 FAX022-379-3994 (事務局)



営業時間
10:00~21:00

日曜祝日は20:00迄

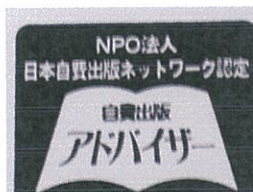
丸善仙台アエル店 丸善の自費出版

あなたの本を創ってみませんか!

丸善は書店としての経験をいかして自費出版本制作のお手伝いをさせていただいております。お気軽にご相談下さい。随時承っております。

*ご希望であれば丸善店頭にて販売も承ります。

☎022-264-0151 携帯 090-5184-0532 (石森)



認定第0014号
石森浩一